

第15回総会と学術集会プログラム

このたび、日本フライブルグ・アルムニ会の第15回総会・学術集会を仙台の地で開催することになりました。

プログラムとしては、フライブルグ大学医学部衛生学教室のS. Batsford教授をお招きし、日本の3.11災害がドイツでどのように報道されたか、そして、福島原発事故をドイツはどのように受け止め、対処したかについて、科学者から見た実情を講演していただきます。

そして、東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 地域医療支援部門 統合遠隔腎臓学分野の清元秀泰教授からは、津波災害直後に臨床医としてどのように活動したかの実体験を報告していただきます。ふるって、ご参加ください。

第15回総会・学術集会会長

仙台社会保険病院病理部主任部長 東北大学医学部病理部臨床教授 城 謙輔

開催日：2012年9月15日(土) 10:30~14:00

場 所：東北大学 片平キャンパス さくらホール2階 (Room A+B)

参加費：2000円(昼食代を含む：学生、院生は参加費を免除いたします)

《ご挨拶》

日本フライブルグ・アルムニ会会長
フライブルグ大学学長 (DVD使用)
ドイツ学術交流会 (DAAD) 日本支部所長
仙台日独協会
フライブルグ大学国際学生交流部門 教授

都築 正和 先生
Prof. Dr. H.J. Schiewer
Dr. H. Finken
大和田 泰夫 先生
Prof. H.J. Stuebig

《学術講演》

【ランチョンセミナー】

A didactic experience from East Japan Earthquake for nephrologist in Japan
”津波災害の医療実態：直後の石巻・気仙沼への支援活動を通じて”

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 地域医療支援部門
統合遠隔腎臓学分野 清元 秀泰 教授

【特別講演】 司会：清水不二雄先生、通訳：青井由美様

Conflicting views on the peaceful use of atomic energy in western Europe
- the lessons of Fukushima
“科学者から見た日本の3.11災害”

フライブルグ大学医学部衛生学教室 S. Batsford 教授